

デジタル田園都市国家構想交付金【地方創生推進タイプ】 令和5年度事業 実績検証シート

No	① 交付対象事業の名称 (創生プランでの分類)	② 事業の概要	③ 事業の概要(経費内容)	④ 交付金の種類	⑤ 事業費	⑥ 交付金充当額	⑦ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		⑧ 本事業終了後における実績値		⑨ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑩ 外部有識者からの評価	事業担当課
							指標	目標値(R6.3)	実績値(R6.3)	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由		
1	「地域ぐるみ」で効果的な認知症予防推進事業 (基本目標: II ひとを大事に活力創生)	地域の人材を活用した運動推進員の養成、デジタルツールを活用した地域ぐるみの認知症予防活動をすすめるとともに、孤立や閉じこもりを防ぎ、平時から見守りあう地域支援体制を構築することで、高齢者が健やかに安心して暮らせるまち、高齢者にやさしいまちづくりを目指す。 ①運動推進員の養成費用 医療機関による「あたまを使った運動プログラム」の習得を目的とした運動推進員の養成 ②地域の人材を活用した組織づくり TMKチャレンジクラブによる運動推進員の巡回指導 ③定期的な運動の実施及び運動の習慣化 運動推進員に対する謝礼 ④効果の測定 健康チェックにおいて使用する「あたまの健康チェック」「のうKNOW」「嗅覚チェック」の実施 【事業期間: 令和5年度～令和7年度】 【地域再生計画: 令和5年度～令和7年度】	①運動推進員の養成費用【委託料】70,000円 ②地域の人材を活用した組織づくり【委託料】2,430,000円 ③定期的な運動の実施及び運動の習慣化【報償費等】101,000円 ④効果の測定【謝礼、消耗品、使用料等】1,100,000円	推進	3,701,000円	1,850,500円	指標① 脳もからだも生き生き元気教室参加者数 (事業開始前:100人)	110人	66人	地方創生に効果があった	事業の継続 認知症のリスクが高い地区を選定し実施した結果、当初見込みより参加対象人数が減ったが、60代、70代の参加者が増え、認知症予防活動の実践、継続がスムーズにできたと考える。引き続き効果的な予防活動の実践を図るために、現状分析、評価を行い、認知症の正しい理解、市民の予防活動の定着をはかるとともに、高齢者にやさしいまちづくりに寄与する。	地方創生に効果があった	健康推進課	
2	「恋人の聖地」広域市町村連携によるデジタル・シティプロモーション事業 (基本目標: III ひとを呼び込み活力創生)	『恋人の聖地』を有する市町村のうち、広域連携によるデジタル・シティプロモーションによる地方創生事業に賛同する18市町村が連携し、次の事業を実施する。 ①広域市町村連携シティプロモーション事業(SNS等の活用のためのポータルサイト等の基盤整備事業) 18市町村が共同活用できるプラットフォーム、SNS、共同制作物等を整備する。 ②各市町村の連携シティプロモーション事業 独自のシティプロモーションを実施し、18市町村が連携を図る。 ③情報ネットワーク・地域活性化事業 都市圏からの共同誘客ネットワーク構築(協働イベント実施、PR事業等の実施) 【事業期間: 令和3年度～令和7年度】 【地域再生計画: 令和3年度～令和7年度】	①SNS等の活用のためのポータルプラットフォーム基盤整備事業【負担金】5,000,000円 (1)共同PR・プロモーション事業 (2)プラットフォーム企画展開事業 (3)ポータルサイト基盤事業 (4)事務局・部会等運営費 ②市町村連携シティプロモーション事業【補助金】2,000,000円 (1)恋叶ロード誘客情報発信事業 (2)女子旅EXPO出展 ③市町村の連携デジタル活用・地域活性化事業【補助金】15,125,000円 (1)県外プロモーションイベント (2)恋叶ロードの日誘客イベント (3)恋叶ロードパンフ制作 (4)サウナフェス (5)長崎鼻景観づくり事業 等	推進	22,125,000円	11,062,000円	指標① 観光入込数【R5増加分】	253,500人	160,000人	地方創生に相当程度効果があった	事業の継続 目標を達成しなかった指標があるものの、連携事業全体では達成している。今後も引き続き、SNS等による情報発信、雑誌・メディア掲載、著名人とのコラボ等を絡め、全国18自治体の参画自治体と連携を図りながら、さらなる誘客促進を目指す。	地方創生に相当程度効果があった	商工観光課	
指標② ポータルプラットフォームへの投稿数【R5増加分】	60件	4件												
指標③ メディア掲載数【R5増加分】	24件	25件												
3	国東半島の鬼などの文化資源を活かした地域の賑わい創出事業 (基本目標: II ひとを大事に活力創生)	①国東半島峯道ロングトレイルと関連したアウトドアブランドとのタイアップによる商品開発、情報発信を行い、知名度向上を図る。 ②インフルエンサーやメディアを招聘したファミトリップ(モニターツアー)を実施し、旅行商品や体験プログラムの知名度向上を図る。 ③旅行商品や体験プログラムの魅力を多くの人に訴求するための動画を作成し情報発信を行う。 ④重点地区を真玉谷、安岐谷に定め、地域産品のブランディングとして、加工商品開発・パッケージデザイン・ブランディングのためのストーリー作成などを行う。 ⑤都市部で行われる展示会・商談会に出展する。 ⑥オープンデータを活用した3年間の事業成果を検証し、今後の事業継続に向けてプロデューサーやガイドらとの共有を図る。 【事業期間: 令和3年度～令和5年度】 【地域再生計画: 令和3年度～令和5年度】	①アウトドアブランドとのタイアップ事業【委託料】2,500,000円 ②インフルエンサー等の招聘によるファミトリップ(モニターツアー)【委託料】2,500,000円 ③くにさき旅行・体験プログラムの魅力を発信する動画作成【委託料】2,000,000円 ④谷のブランディング・商品開発【委託料】1,229,400円 ・鬼のめざまし味噌など3商品 ・くにさきクラフトジン ・牡蠣飯、蛸飯、ガザミ飯の素 ・豊後高田人形焼き ⑤商談会における情報発信事業【委託料、負担金】496,824円 ⑥効果検証【委託料】500,000円	推進	9,226,224円	4,613,112円	指標① 六郷満山日本遺産推進協議会の収益事業(体験プログラム運営、物販事業、寄附事業など)による売上(事業開始前:1,200千円)	6,000千円	5,337千円	地方創生に相当程度効果があった	事業内容の見直し(改善) 本事業においては、弱点となっていた特産品の開発を多く実施し、物販での売上はかなり伸びた。体験プログラムを基調としたツアー造成もでき、商談力もついたので、BtoBtoCで近日実現できるものも生まれてくるなど、観光事業化に関する大きな成果はあった。また、PRプラットフォーム・媒体の作成ができた。今後はこれらを使って実誘客を行うフェーズに至っている。組織的な部分では、当初考えていた協議会の法人化・直営旅行業の実施という展開を目指していたが、協業できる業者の誘致に成功したため、今後は官民協業による収益拡大・受入態勢整備を進めたい。	地方創生に相当程度効果があった	文化財室	
指標② 国東半島リトリートツーリズムや教育旅行のプログラムにおける誘客数(事業開始前:0人)	500人	358人												
指標③ 発掘・育成した地域プレイヤーの数(事業開始前:1人)	9人	10人												
指標④ ホームページ閲覧数(事業開始前:55,000PV)	150,000PV	99,479PV												

デジタル田園都市国家構想交付金【地方創生推進タイプ】 令和5年度事業 実績検証シート

No	① 交付対象事業の名称 (創生プランでの分類)	② 事業の概要	③ 事業の概要(経費内容)	④ 交付金の種類	⑤ 事業費	⑥ 交付金充当額	⑦ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		⑧ 本事業終了後における実績値		⑨ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑩ 外部有識者からの評価	事業担当課	
							指標	目標値 (R6.3)	実績値 (R6.3)	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由			
4	「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業 (基本目標:Ⅲひとを呼び込み活力創生)	『恋人の聖地』を有する市町村のうち、広域連携によるバーチャルコンパクトによる地方創生事業に賛同する14市町村が連携し、次の事業を実施する。 ①広域市町村連携シティプロモーション事業(SNS等の活用)WEB上に14市町村共同の「仮想シティ」(バーチャルシティ/ポータルサイト)を開発し、全市町村の関連事業コンテンツ(定住促進、子育て、農林水産、観光、その他事業)を1ヶ所へ集約。複数の主管情報を利用者視点で魅力や付加価値をピックアップ企画編集、ゲーム感覚で市町村情報に触れるアクティビティを埋め込み、地方志向者の「仮想市民登録」促進を図る。 ②観光交流促進強化連携事業 14市町村が複数の観光資源を周遊させる仕組みづくり、リピーターを飽きさせない地域の新たな魅力の創出と発信、観光に対する消費者の価値観や社会環境の変化に対応するニューツーリズム・マイクロツーリズム推進事業を実施。 ③若者・子育て世代交流促進事業 「仮想シティ」(バーチャルシティ/ポータルサイト)における「仮想市民登録者」のニーズ把握を基に、若者やファミリー層を惹きつけるICTを活用したアプローチ、各資源を結びつける仕掛け、まちの魅力や知名度が向上するコンテンツの造成に取組む。	①市町村連携共同基盤運営事業【負担金】5,000,000円 (1)連携ポータルサイト基盤運営事業 (2)プラットフォーム企画展開事業 (3)共同PR・プロモーション事業 (4)事務局・部会等運営費 ②観光交流促進強化連携事業 24,338,000円 (1)恋叶ロード情報発信事業 (2)恋叶ロード沿線真玉地域活性化事業等 (3)地域特産品・販売促進事業等 ③若者・子育て世代交流促進事業 44,352,000円 (1)高校生のための学びの21世紀塾事業等 (2)婚活推進事業等 (3)移住フェア	推進	73,690,000円	36,845,000円	指標①	観光入込数(人) 【R5増加分】	80,000人	160,000人	地方創生に相当程度効果があった	事業の継続	連携事業全体で指標を達成している。引き続き、観光交流促進事業や、若者・子育て世代交流事業について、市関係各課の横断的な連携はもとより、全国14の参画自治体と広域的な連携を図り、さらなる関係人口の拡大を図る。	地方創生に相当程度効果があった	商工観光課
							指標②	仮想市民登録数(件)	2,380件	2,497件					
							指標③	地方志向者の魅力度数(%)	54%	61%					
5	明日に繋げる中小事業者総合支援事業 (基本目標:Ⅳ仕事をつくり活力創生)	行政と経済団体が連携し「豊後高田市中小事業者支援協議会」を設置し、中小事業者の個別状況に応じた多面的な支援を行い、持続的発展と雇用確保を図る。 ①SDGs支援 セミナーの開催、SDGs宣言サポート業務 ②ICT, DX支援 セミナー開催、個別相談会開催、DX導入支援、IT企業誘致支援、人材育成プログラム開発 ③クラウドファンディング支援 セミナー開催 ④創業支援 相談会の開催、支援機関と連携した個別相談会 創業計画策定支援 ⑤人材確保支援事業 求職支援(就職説明会) 外国人材に関するセミナー開催 留学生等の獲得に向けたコンサルティング 県外向けリモート就職説明会の開催 ⑥協議会運営費 セミナーに係るチラシ・ポスター作製 【事業期間:令和5年度~令和7年度】 【地域再生計画:令和5年度~令和7年度】	①SDGs事業【補助金】781,000円 ②ICT, DX事業【補助金】4,950,000円 ③クラウドファンディング事業【補助金】847,000円 ④創業支援事業【補助金】1,397,000円 ⑤人材確保支援事業【補助金】1,986,600円 ⑥協議会運営費【補助金】92,840円	推進	10,054,440円	5,027,220円	指標①	年間雇用創出者数 (事業開始前:284人)	384人	303人	地方創生に相当程度効果があった	事業の継続	年間雇用創出者数を増加するため、就職説明会を開催するなど求人者と求職者をマッチングできる機会を提供するとともに、ふるさとハローワークを通じたきめ細やかな支援を行う。セミナーの受講とその内容の実施については、引き続き、受託事業者と連携を図りながら事業者側に周知していく。	地方創生に相当程度効果があった	商工観光課
							指標②	セミナーを受講した事業社数 (事業開始前:0社)	30社	84社					
							指標③	セミナーの内容を実施した件数 (事業開始前:0件)	5件	19件					